

平成7年度 第1回収蔵文書展

入間地方の文書

【前期】6月24日(土)～9月10日(日)

【後期】9月16日(土)～12月3日(日)



埼玉県立文書館

開催にあたって

埼玉県立文書館は、郷土さいたまの歴史を映し出す古文書や記録、県の公文書等を収集・保存するとともに、県民の皆様に公開しています。収蔵文書展はその一環であり、このたび「入間地方の文書」と題して、当館の収蔵する入間地方に残された文書のうち、代々にわたり名主を勤めた四つの家に伝わる史料を紹介します。

会期につきましては前・後期の二期に分け、それぞれ荒川流域の低地地域に所在する林家・奥貫家、入間台地と丘陵の地域に所在する平山家・堀口家の文書を御覧いただきます。

前期には、川越藩領下の支配についての文書を中心に、水害や伝馬騒動の事件についての記録、また、地方農村の文化人として知られる林信海・奥貫友山にかかわる和歌や日記、書簡等を展示します。また、後期には五人組帳や宗門人別帳、貢租関係文書といった近世農村の様子を物語る史料や、養蚕・酒造・紙漉き・炭焼き等の地域性を示す史料の他、高麗陣屋・市の関係文書等を展示します。

今回の展示を通じ、入間地方の歴史的・地理的特色の一端が浮き彫りにされますとともに、広く郷土一般に対する関心と理解を深める機会としていただければ幸いです。

最後に、この文書展を開催するにあたり、貴重な文書を提供してくださいました寄贈・寄託者の方々に深く感謝申し上げます。

平成7年6月

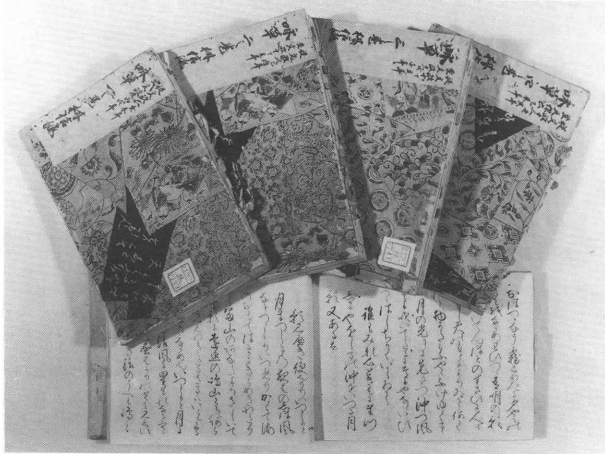
埼玉県立文書館長

◇当館で閲覧できる入間地方の文書◇

市町村	文書名	点数	市町村	文書名	点数	市町村	文書名	点数
所沢市	二上家	21	坂戸市	稲生家	1,524	名栗村	町田家	485
川越市	荒川右岸用排水 土地改良区	74	〃	井上家	2,483	毛呂山町	荒井(秋)家	5
〃	市川家	3	〃	木下家	16	〃	伊藤家	487
〃	奥貫家	3,437	〃	大栄寺	67	〃	伊理家	38
〃	伊達家	305	〃	林家	10,328	〃	大野(孝)家	6
〃	三上家	18	〃	福島(圭)家	358	〃	相馬家(旧山本坊)	729
飯能市	小岩井村	15	越生町	小杉梅園神社	28	〃	滝ノ入区有	434
鶴ヶ島市	田中家	1,780	日高市	堀口家	1,700	〃	平山家	7,018
			〃	勝音寺	600		(平成7年3月現在)	

*表紙：川越藩領絵図（林家 6993）

林家は、江戸から14里、川越城下から3里の距離に位置する入間郡赤尾村（現坂戸市赤尾）において、代々にわたり名主を勤めていた。その出自については、文亀年間（1501～1503）に信州諏訪から移住したと伝えられている。文書の内容とすると、川越藩における村落支配の様子を物語る文書をはじめ、治水関係の史料等1万点以上を有し、質量ともに県内有数の村方文書といえる。



No.41 吟草（林家 7739～7747）

一 赤尾村と林家一

赤尾村の歴史は古く、慶長2年（1597）の検地帳が現存するうえ、既に鎌倉時代から開発が進められていたと考えられる。当村は、もと天領であったが、旗本大久保氏と川越藩との相給となり、後に全村川越藩領へと推移した。その中で、林家は代々赤尾村下分の名主を勤めており、村政一般・殖産・治水の功績を認められ、苗字御免を授けられている。

一 川・用水をめぐる一

赤尾村は越辺川沿いの自然堤防上に、南北に細長く集落を形成している。そこで、主な用水は越辺川から飯盛川へそそぐ水路に頼り、その引き入れ口にある島田村と利水をめぐる争論が多発した。そのうえ、洪水による被害を受けることも多かった。堤工事は自普請によらなければならない当村において、名主である歴代の林家当主はおおいに苦心したことが偲ばれる。

一 林信海と日々の記録一

第13代信海は文化元年（1804）に生まれ、その村政における業績から頭取名主格に任じられた。また、国学と和歌への造詣が深く、「桜園」と号した。多くの文人と交わり、日記や記録をよく書き留める一方、自家の文書の整理や考察を試みている。

奥貫家は入間郡久下戸村（現川越市久下戸）の旧家で、古くから名主役を勤めていた。先祖の荻野氏は、相模国荻野郷（現神奈川県厚木市）に代々住し、後北条氏に属していたという。そのうちの女子が、後北条氏滅亡とともに久下戸に移り奥貫氏を婿としたのが当家の始まりとされる。第5代当主の奥貫友山は、寛保2年（1742）の大水害の救済事業や寺子屋併設の漢学塾経営で知られる。また、明和の伝馬騒動の記録や和歌・漢籍等を残し、農村学者の証しを色濃く伝えている。

一 久下戸村の土地と開発一

久下戸村は、荒川と新河岸川にはさまれた低地に位置し、川越藩領に属する。藩では武蔵野台地の開発に力を注いだだが、当地は周辺農村の入会秣場であり、畑地が開かれたものの争論の末に潰され、後に立帰となる経緯をたどった。

一 干水害と伝馬騒動一

伊佐沼は用水と遊水機能もち、ここから二間堀用水によって灌漑をしていたが、天候によっては干水害に会いやすかった。寛保2年（1742）に大水害が関東一円を見舞うが、名主奥貫友山の献身的な救済が施された。これから23年後の明和の伝馬騒動において当家が打壊しを免れたのは、この時の恩義によるといわれる。

一 学者・奥貫友山一

第5代奥貫友山は、宝永5年（1708）に生まれ、幼くして午山不老和尚に、後に江戸幕府儒官の成島道筑について学んだ。水害の救済活動で川越藩から褒賞が与えられるなど、実行の人であった。また、多くの学者・文人と交遊する一方、寺子屋併設の漢学塾を開設し、教育にあたったことで知られる。



No.27 〔奥貫友山肖像〕（奥貫家 3437）

平山家は藤原氏の出で、齋藤実盛の流れを汲むといわれ、明治維新まで齋藤と称していた。天明年間（1781～1789）以降入間郡平山村（現毛呂山町岩井）の名主となり、幕末には寄場組合大惣代も兼ねた。また、明治以降も岩井村の戸長等を歴任した。文書の内容とすると、名主としてかかわった村政史料や財力を生かして行った質屋・酒造業等の経営史料が多く残されている。さらに、幕末期の国学者権田直助との交渉を示す史料が含まれ、この地方における国学の浸透をうかがい知ることができる。

－平山村の支配と村の様子－

平山村は近世初頭においては毛呂村に属し、寛文12年（1672）の毛呂本郷等7村分村をもって成立したが、この後も、幕府巡見使通行に伴う諸負担・飛来大明神の神事等で7村の連帯関係を保った。領主は、天領・川越藩領と変遷し、旗本三枝氏領の時に明治維新を迎えた。

－齋藤家の経営－

齋藤（平山）家は宝暦～天明期（1751～1789）に土地集積を進めたことにより村落における最上層の地位を占め、天明年間（1781～1789）に名主となった。さらに、「一藤屋」の屋号を称しその財力を生かして質屋・酒造業の経営や蚕繭・蚕種の売買等を行った。また、幕末には作徳米（小作料）をめぐる小作出入が頻発した。

－幕末の齋藤家－

当家の齋藤実平が平田塾に入門するにあたり、国学者の権田直助の紹介があったものと思われる。この結び付きは、直助が毛呂本郷の出身であることに起因している。直助自筆と考えられる史料の外、異国船来航にかかわる記録が注目される。



No.37 異国船〔留書〕（平山家 1837）

No.38 嘉永六癸丑年写書（平山家 1840）

堀口家は、代々高麗郡梅原村（現日高市梅原）の名主・組頭として村政にあたる一方、盛んに商業活動を行ってきた。その出自については、新田氏の一族堀口美濃守貞満の末裔の三郎満久が高麗郡に住したことに始まるといわれ、慶長2年（1597）に高麗陣屋及び市の移転とともに梅原村に移住した。高麗市や近世初期の土地・租税史料が豊富なおよび、紙漉き・炭焼きといった梅原村と高麗本郷の地域性を示す産業関係史料が注目される。



No.25 乍恐以書付奉願上候（堀口家 1117）

－高麗本郷と梅原村－

梅原村は高麗川が外秩父山地から平地に流れ出る谷口に発達した集落で、高麗本郷からは高麗川の湾曲部をはさんだ東南にあたる。田畑の比率は、梅原村が畑方が圧倒的に多いのに対して、高麗本郷は台地に位置するにしては田方の比重が高い。これは、巾着田の開発によるといえる。領主については、高麗本郷は天領と御三卿の清水家の支配を交互に繰り返しているのに対し、梅原村は延享4年（1747）に天領からやはり御三卿の一橋家領に移って以来変わっていない。

－高麗陣屋と高麗市－

当初高麗本郷に設置された陣屋は、慶長2年（1597）に代官大久保長安によって隣村の栗坪村に移された。この時、古くから高麗本郷に立てられていた市も梅原・栗坪両村内へ移され、新市場地域は高麗町と称された。かつては賑わいを見せた市も、貞享4年（1687）あるいは元文2年（1737）の陣屋廃止とともに衰退していった。そこで文化2年（1805）高麗市再興の願書が出され、年2回から4・8の六斎市が復活し願いが達せられた。

－台地上の産業－

標高約100mの当地方は、米・雑穀の外に茶・綿・たばこ等が栽培され、その他、養蚕・機織・紙漉き・高麗川での漁猟、さらに漆の採取や炭焼きに従事する者もいた。これらの中には、近隣の市で売買されるものもあった。

展 示 文 書 目 録

◎林 家 文 書

No.	年 号 (西曆)	文 書 名	文書番号
		—赤尾村と林家—	林 家
1	嘉永 6 (1853)	川越藩領絵図	6993
2	明治 4 (1871)	〔赤尾村絵図〕	6991
3	慶長 2 (1597)	武州入西郡下赤尾村水帳	15
4	慶長 3 (1598)	〔赤尾村年貢皆済状〕	5741
5	元禄11 (1698)	武州入間郡赤尾村諸色明細帳	72
6	元禄14 (1701)	年中之入目帳	1112
7	天保10 (1839)	〔農間渡世者取調書上〕	251
8	弘化 4 (1847)	世業雑記録	1839
9	明和 5 (1768)	條目及 (寺社)・弁書 (寺社)	7373
10	明和 5 (1768)	條目及・弁書 (山方)	7371
11	明和 5 (1768)	定・五人組帳前書	7372
12	明和 2 (1765)	差上申証文之事 (明和二年打こはし事件)	6619
13	享保20 (1735)	乍恐以口上書奉願候御事 (名主半三郎一人願)	6448
14	文化 5 (1808)	〔林左伝次退役褒賞〕	3136
15	〔安政元 (1854)〕	〔上納金寄特ニ付頭取格任命書〕	2847
16	〔寛政 7 (1795)以前〕	林左伝次幸蔵代検地居屋敷并田畑絵図	6985
		—川・用水をめぐる—	
17		〔越辺川付近田畑絵図〕	6990, 6994
18		丑年堤通腹付御普請土取場絵図	6988
19	安政 7 (1860)	〔脇堤絵図〕	3110
20	慶応元 (1865)	川辺伐払跡絵図 (赤尾・小沼・横沼・紺屋村略絵図)	6986
21	享保14 (1729)	差上申一札之事 (赤尾村困林水行障一件ニ付)	4376
22	明和 4 (1767)	乍恐以書付奉願上候 (越辺川普請願)	4445
23	宝暦 7 (1757)	乍恐以書付奉願上候 (川除普請願)	4444
24	明和 6 (1769)	島田村・赤尾村組合用水堰樋御普請目論見帳	6967
25	嘉永 6 (1853)	乍恐以書付奉願上候 (島田・赤尾村用水堀一件)	3454
26	安永 7 (1778)	一札之事 (新規水車仕立候ニ付)	6122
27	安政 6 (1859)	上下分出水床上り家々見廻り記帳	777
28	安政 6 (1859)	洪水床上り家々へ被下令割渡帳	778
29	寛政12 (1800)	乍恐以書付奉願上候 (筏川下ヶ師赤尾村久五郎、政五郎赦免願)	2817
		—林信海と日々の記録—	
30	天保10 (1839)	万事記録	2491
31	天保13 (1842)	御用日記留	1491
32	嘉永 3 (1850)	役用向諸記録	1918
33	嘉永 3 (1850)	田畑山林見廻り記其外雑記録	2426
34	安政 2 (1855)	御用御廻状留帳	1438
35	嘉永元 (1848)	他出雑記帳	2492
36	天保15 (1844)	家内記録見聞帳	1359
37	〔安政 5 (1858)〕	藩財政建直建言書	250
38	天保 3 (1832)	旅路日記	2472
39		めづらの旅日記	7033
40	文政10 (1826)	恋五十首和歌	2424
41	文政 6 ~ 嘉永 2 (1823) (1849)	咏草	7739~7747
42	〔文久 2 (1862)〕	辞世	7859

◎奥貫家文書

No.	年号(西暦)	文書名	文書番号
			奥貫家
		—久下戸村の土地と開発—	
1	慶安元(1648)	慶安元年御水帳(廿式冊之内、屋敷)	63
2	延宝3(1675)	延宝三年武蔵野開御水帳写(武州河越領久下戸村 武蔵野開発地水帳式冊之内)	312
3	宝暦12(1762)	御水帳訳書	299
4	宝暦5(1755)	武州入間郡久下戸村明細長	689, 690
5	[宝永(1704~11)]	川越御領分村々秋元様御時(川越藩所領高帳)	607
6	明和5(1768)	河越御取替記	328
7	寛保2(1742)	御触書写并村中判取帳	243
8	享保13(1728)	御会所ニ而被仰出候御意之趣 (飢百姓ニ麦借奇特ニ付褒美金頂戴、褒美金包紙裏紙)	776
9	寛政2(1790)	乍恐以書付奉申上候(社倉取立発起ニ付金子拝領覚)	1256
10	[貞享2(1685)]	武蔵野秣場出入書付写	45
11	享保14(1729)	年々収納並売米覚帳	161
12	元文2(1737)	川絵図御用ニ付御尋之趣左ニ申上候	1115
13		[悪水塚樋等麓絵図]	1211
		—干水害と伝馬騒動—	
14	[寛保3(1743)]	大水記	40
15	寛保2(1742)	川越領入間郡久下戸村戌御年貢割付事	1178
16	[明和7~9] (1770~1772)	明和中旱魃記・大火記・大風記	48
17	文政4(1821)	旱魃ニ付村内取究連印帳	190
18		口上之覚(丑年水損之儀ニ付取極)	902
19	寛延元(1748)	差上申一札之事(新河岸川河岸置土等により水腐出入)	1105
20	寛延元(1748)	乍恐口上書を以奉願上候事(伊佐沼用水水門設置願)	787
21	戊	伊佐沼御新田ニ罷成候而ハ難儀仕候訳	1424
22	明和元(1764)	中山道増助郷一件	36
23	明和2(1765)	酉年百姓騒動一件	35
24	明和元(1764)	朝鮮人御入用御国役金割合帳	597
25	明和2(1765)	中仙道増助郷入用割合	596
26		[中山道大宮宿助郷記録]	164
		—学者・奥貫友山—	
27		[奥貫友山肖像]	3437
28	[明和8(1771)]	老の寿佐美	37
29	安永6(1777)	子孫江申置ことは	44
30	天明5(1785)	荻氏遺書	38
31		古今人教訓いろは歌	46
32		詠艸	49
33	天明7(1787)	奉哭友山先生	51
34	天明8(1788)	[友山墓碑銘]	7
35		[平洲塾長の件ニ付書状]	33
36		[救荒之一軸ニ付書状]	34
37		[久下戸村立寄ニ付書状]	60
38		[友山翁一軸ニ大納言様、中将様御感銘ニ付書状]	32
39	文政7(1824)	古道大意 上巻	2941
40	[享保元(1716)]	救荒本草	2695
41		本草綱目図	2603~2605

◎平山家文書

No.	年号(西暦)	文書名	文書番号
—平山村の支配と村の様子—			平山家
1	寛文11 (1671)	亥年可納御年貢割付之事	3029
2	天明 4 (1784)	辰ノ田畑御年貢皆済御上納目録	3043
3	明治 5 (1872)	未租税皆済目録(葦山県)	3033
4	寛政 3 (1791)	武蔵国入間郡平山村百姓持高帳	457
5	宝暦 6 (1756)	武蔵国入間郡毛呂郷平山村諸色明細帳	1863
6		[田島所持覚]	1802
7	寛政 8 (1796)	五人組頭取締定御下知御請連印帳	1328
8	天明 3 (1783)	卯飢饉村内老幼江合力覚	480
9	文化13 (1816)	乍恐以書付奉願上候(御飾松御用目録銀外増額願)	3100
10	安政 5 (1858)	乍恐以書付御訴訟奉申上候(作徳米滞出入)	3665
11	慶応 2 (1866)	打毀記録	1862
12	寛政10 (1798)	武州入間郡毛呂郷七ヶ村之惣鎮守臥龍山社頭之八幡宮 飛来宮御宝前石鳥居造料寄進出金取立帳	511
13	寛政 3 (1791)	平山村惣檀家施餓鬼位階次第并座席上下改帳	1773
14	天明 3 (1783)	[万覚書]	1786
15	明和 9 (1772)	斎藤家諸事歲月記録	1790
—斎藤家の経営—			
16	宝暦 7 (1757)	農作物穀文記	654
17	寛政 5 (1793)	耕作仕付帳	1153
18	天明 6 (1786)	炭山万覚帳	313
19	天明 6 (1786)	箭頭山炭山諸入用金銭并ニ飯料諸事請取覚帳	960
20	安永 6 (1777)	蚕繭買売商覚帳	967
21	宝暦 6 (1756)	皇帝命百歳蚕(蚕種繭取引帳)	968
22	天明 7 (1787)	万売物并ニ桑絹繭売帳	632
23	享和 3 (1803)	酒造最寄仲間連印帳	1868
24	天保 2 (1831)	為取替議定一札之事(無株酒造差止入用ニ付)	3158
25	天保12 (1841)	為取替証文之事(酒造株蔵諸道具借受ニ付)	3080
26	明和 8 (1771)	取引申仲間申合之事(質屋仲間取極)	3848
27	宝暦10 (1760)	[質地証文覚]	1807
28	宝暦14 (1764)	万売買覚帳商文	1097
—幕末の斎藤家—			
29		甲子初秋見聞録	1826
30	文久 2 (1862)	壬戌日乗	1812
31		癸亥日乗	1811
32		安政癸亥京中筆記	1810
33	[文久 3 (1863)]	[京表聞書]	1832
34	[文久 3 (1863)]	亥七月京発書状中の写	1825
35	[元治元 (1864)]	[京都風聞]	1822
36	文久元 (1861)	実平伊勢餞別受納帳	187
37	嘉永 6 (1853)	異国船[留書]	1837
38		嘉永六癸丑年写書	1840
39	嘉永 7 (1854)	異船渡来一件御用留書抜	1358, 1821
40		米夷書類	1851
41		大和州騒乱聞書	1850

◎堀口家文書

No.	年号(西暦)	文書名	文書番号
			堀口家
-高麗本郷と梅原村-			
1		武州高麗郡梅原村絵図	1696
2		[子年高麗本郷巾着田付近田方御用絵図]	1663
3	寛政5 (1793)	[溜井庵絵図]	1575
4	慶長2 (1597)	武州高麗郡内高麗本郷御地詰帳	1654~1656
5	寛文8 (1668)	武州高麗郡高麗本郷御縄打水帳	241
6	貞享3 (1686)	寅御年貢可納割付之事	1494
7	貞享5 (1688)	寅之御年貢皆済状之事	1541
8	延宝5 (1677)	武州高麗領本郷巳春人別・宗旨・五人組改帳	82
9	享保元 (1716)	武州高麗郡梅原村高反別明細書上帳之控	189
10	天明8 (1788)	御巡見様御通行一件日記	306
11	延宝2 (1674)	高麗本郷万手形	161
12		祭礼花火番付	780
13	延享5 (1748)	差上申取扱済口証文之事 (墓所并死馬捨場之儀ニ付出入一件)	1415
14	天明3 (1783)	天明三癸卯年穰一橋御領知御村騒動記	157
15	慶応2 (1866)	武州飯能寄場打こわし一件筆記	209
16	元文4 (1739)	壺番元文四年未店改覚帳	703
-高麗陣屋と高麗市-			
17	子	請取御払物代金之事 (陣屋古家御払代金請取)	1213
18	辰	[牢屋修覆用槻木ニ付]	1668
19	貞享3 (1686)	指上ケ申手形事 (陣屋跡地小作証文)	1407
20	天和3 (1683)	御陣屋畑亥御年貢 [] (年貢請取)	1238
21	元禄14 (1701)	乍恐以書付申上候御事 (栗坪梅原両村ト高麗町トノ出入)	1119
22	承応4 (1655)	指上申一札之事 (高麗町市等ニ付議定)	1169
23	文化2 (1805)	武州高麗本郷市再興諸書物控并ニ訳	1579
24	文化2 (1805)	市日諸売買有増書上帳	131
25	文化2 (1805)	乍恐以書付奉願上候 (高麗市再興ニ付)	1117
26	文化2 (1805)	差上申一札之事 (高麗市再興ニ付請書)	1149
27	文化2 (1805)	市再建入用日記	694
28	天保3 (1832)	市議定連印之帳	1576
-台地上の産業-			
29	元禄15 (1702)	請負請取申横木之事	1393
30	天保3 (1832)	河岸炭出帳	327
31	天和3 (1683)	乍恐以書付御訴訟申上候 (紙仲買ニ付訴状)	1108
32	享和元 (1801)	日向山立木入札覚帳	531
33	天和3 (1683)	[真木舟送ニ付書状]	1673
34	貞享元 (1684)	請取申御楊子木代金之事	1398
35	貞享4 (1687)	寅ノ御年貢漆請取申事	1399
36	天明4 (1784)	辰小物成取立帳	653
37	安永9 (1780)	差上申一札之事 (猪鹿多出田畑作毛荒ニ付鉄砲拝借願)	1182
38	寛文9 (1669)	指上申一札之事 (炭釜山山林ニ付議定)	1170
39	寛永2 (1625)	乍恐以書付申上候 (すみかま山馬草刈取ニ付百姓連署訴状、裏書)	1643
40	正徳4 (1714)	取替証文之事 (炭釜山一件議定書)	1445
41	寛文7 (1667)	乍恐以書付籠舎之御訴訟申上候 (炭釜山一件ニ付)	1431
42		[炭釜山附近絵図]	1664

※ 期間中、一部展示替えを行います。

●埼玉県立文書館利用案内●

開館時間 / 9:00~17:00
 休館日 / 月曜日、国民の祝日・休日、毎月末日
 年末年始 (12月27日~1月5日)
 特別整理期間 (春秋各10日間以内)
 交通案内 / JR浦和駅下車徒歩12分
 JR中浦和駅下車徒歩15分
 国際興業バス県庁裏下車0分

